

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

| 達成度（評価） |               |
|---------|---------------|
| A       | : 十分達成できている   |
| B       | : おおむね達成できている |
| C       | : やや不十分である    |
| D       | : 不十分である      |

| 学校名 | 武雄市立山内西小学校 |
|-----|------------|
|-----|------------|

|               |   |
|---------------|---|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <p>①知的な学校【知的好奇心の育成】について<br/>         ・授業づくり123を活用して授業改善に取り組んだことで、本校の課題であった授業の「まとめ」や「振り返り」の充実を図ることができた。その結果、93%の児童が「学校の勉強が分かる」と回答しており、学んだことや自己の成長を自覚できた児童が多かったと考える。次年度は、「授業がよくわからない」と回答した児童に対する個別の指導・支援や家庭学習への取り組み方を更に工夫し、学力の底上げを全職員で図っていききたい。</p> <p>②居心地のいい学校【自己肯定感の育成】について<br/>         ・児童アンケートで「自分や友達のことを大切に思っていて行動している」と回答した児童は97%で、昨年度より3%上回った。各プロジェクトによる取組の工夫や、特別活動と関連させた道徳科の授業実践の成果と捉える。次年度も、全職員で共通理解のもと継続した教育活動を展開していききたい。</p> <p>③元氣な学校【挑戦心の育成】について<br/>         ・昨年度に引き続き、運動会や走ろう大会等の体育的行事を通し、健康な体づくりへの取組を継続することができた。健康な食習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは97%の保護者が肯定的な回答をしている。しかし、児童アンケートにおいて「バランスよく食べる」ことに否定的な回答をした児童が9%いたことから、次年度は、食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。</p> |
|---------------|---|

|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 2 学校教育目標 | やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子 |
|----------|-------------------------------|

|            |   |
|------------|---|
| 3 本年度の重点目標 | <p>①全職員の共通実践を通じた教職員の資質向上      ②人権教育の更なる充実による児童の自己肯定感の育成      ③体育的行事の工夫による児童の健康・体力づくりの向上</p> |
|------------|---|

|               |      |        |
|---------------|------|--------|
| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 |
|---------------|------|--------|

| (1)共通評価項目          |  |   | 中間評価  |   | 最終評価   |   |  |
|--------------------|--|---|---|---|--|---|--|
| 評価項目               | 重点取組   |   | 具体的取組   | 中間評価  |  | 最終評価  |  |
|                    | 取組内容   | 成果指標 (数値目標)   |   | 進捗度 (評価)  | 進捗状況と見通し   | 達成度 (評価)  | 実施結果   |
| ●学力の向上             | ○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践                        | ○「授業づくりのステップ1, 2, 3」の全項目において、ステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」と「振り返り」はステップ3を達成した教員が80%以上にする。<br>○ICT(一人一台端末等)を活用して授業を行うことで、学習内容がよりわかると答えた児童が80%にする。 | ・「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。<br>・各学級や個人の実態に応じて授業の形態を工夫する(習熟度、少人数指導の実施)。<br>・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、効果的だった授業実践等を共有する。 | B   | ・「授業づくりステップ1・2・3」のチェックリストを活用することで、普段の授業を振り返ることができ、授業改善の意識を継続することができている。<br>・学年や学級の実態に応じて、少人数指導を実施し子ども一人一人に対応した授業を展開している。<br>・タブレットの活用は日々行われている。効果的な活用方法についても、時間を見つけて情報交換をすることができている。                       | B   | ・「授業づくりのステップ123」を意識してステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」や「振り返り」はステップ3を達成した教員は72%であった。<br>・子どもを主体とした「わかる授業」の充実、ICT機器活用の授業、少人数・TT指導、家庭学習への取組などに努めることができたと答えた教員は、87%であった。<br>・タブレットを使って学習を進めていくことで、「授業がよくわかる」と答えた児童は、86%であった。 |
|                    | ○各教科と関連した読書活動の充実を図る。   | ○授業内容と関連して、読書活動の充実を図る。<br>○年間の目標冊数(低学年120冊、中学年110冊、高学年100冊)を達成した児童の割合が80%以上にする。   | ・授業内容と関連した読書活動を計画し、授業に位置付ける。<br>・読書に対する意欲を高める取組(本の紹介、環境整備、図書館祭り)を年間2回以上計画し、実施する。  | A   | ・全学年において、国語などの学習と関連した読書活動に積極的に取り組んでいる。<br>・図書館まつりでおおむねクイズをすることで、本への興味をさらに深めることができ、どの学年でも年間目標の読書冊数の5割前後まで達成することができた。  | A   | ・全学年において、授業内容と関連した読書活動に積極的に取り組むことができた。<br>・後期も図書館まつりをしたり、年間を通して環境整備をしたりしたことで、読書に対する意欲を高めることができ、全校児童の8割以上が年間の目標冊数に達することができた。  |
| ●心の教育              | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○気持ちの良い挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童を(自己評価)85%以上にする。<br>○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85%以上にする。  | ・集会活動や運動会、あいさつ運動等で異学年交流の機会を設け、思いやりのある関わり方を意識させる。<br>・人権・同和教育、男女平等教育は全教育課程に位置付け、教育活動の中で周りの人とのつながりを感じさせるとともに、一人ひとりの存在を認め合うことができるようにする。              | A   | ・挨拶については、「あいさつ大作戦」(あいさつ運動・ポスター掲示)を通して、「自分から・誰にでも・笑顔で」を意識して取り組ませることができた。<br>・集会活動やあいさつ運動等を通して、異学年交流の場を設けることができた。今後の運動会や学校生活につなげていきたい。<br>・平和集会では、自分の考えも相手の考えも大切にすることを関わり方について取り扱った。今後の活動でさらに深め、実践につなげていきたい。 | A   | ・挨拶、返事、言葉遣いに関して、児童アンケートでは87%で目標を達成することができていた。しかし、実際は、自分からはできていなかったり相手の気持ちを意識できていなかったりするなど、まだ課題がある。<br>・人権集会や異学年交流、道徳の時間を通して、自分も相手も大切にすることを育んできた。児童アンケートでも93%で目標を達成することができているので、継続できるように取り組んでいく必要がある。               |
|                    | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実  | ○「やまうち合言葉」の「優しい言葉を周りの人に」を意識して行動できる児童(自己評価)で90%以上にする。  | ・「Q-Uアンケート」「いじめアンケート」「教育相談」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。   | A   | ・毎月心のアンケートを実施。また、教育相談月間を6月に設け、「いじめ・体罰アンケート」を全児童及び保護者に対して実施。その後、気になる児童に対して教育相談で、全ての事案に対応することができた。「Q-Uアンケート」実施し、結果の見方と活用に関しての職員研修を実施した。  | A   | ・月1回の「心のアンケート」を実施。その結果保護者の87%、職員の93%が「いじめ・体罰アンケート」や「心のアンケート」、「Q-Uアンケート」を行ったことによりいじめを早期に発見したり、防止することができたと思うと回答しており、アンケートが有効に活用することができた。また、「山内合言葉」の「優しい言葉を周りの人に」を意識して行動できたとの回答した児童が93%であり、目標の90%以上を達成することができた。       |
|                    | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。                     | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童生徒80%以上<br>●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上   | ・毎日の帰りの会で、いいことをした人や頑張った人を紹介する場を設け、児童の発表に対し、肯定的なコメントをしたり、教師から紹介をしたりする。<br>・行事ごとに、キャリアパスポートを活用し、目標を達成できた児童や頑張った児童を紹介する場を設ける。                        | B   | ・各学級において帰りの会等に児童のよい行いについて取り上げる時間を設定することができている。児童の発言や担任からのコメントで児童一人一人を認め、高める雰囲気も醸成しつつある。<br>・今後はキャリアパスポートも同様にマンネリ化しないように取り上げ方を工夫しながら進めていきたい。  | A   | ・先生は あなたのよいところを認めてくれていると思う児童は、84%であった。<br>・将来の夢や目標も持っている児童は85%であった。<br>・帰りの会での場の設定や行事ごとのキャリアパスポートの活用が効果的に行われ、成果が出てきている。  |
|                    | ○特別活動との関連を意識した道徳科の授業実践   | ○職員アンケートで「他教科等との関連を意識した授業を実施できた」と思う職員を80%以上にする。   | ・スキルアップ通信を配布し、職員の意識の向上に努める。<br>・校内研修を行い、意識の向上並びに授業力の向上を図る。  | B   | ・授業参観(ふれあい道徳)で道徳の授業を各クラス公開したり、学級通信で配信したりすることができた。<br>・2学期は研究授業等で道徳科の情報を発信して、職員の意識の向上に努める。  | A   | ・G研で道徳科の授業が2回行われ、スキルアップ通信で情報を発信した。<br>・保護者アンケートで「学校は、道徳科の授業を工夫し、道徳的判断力を培ったり、豊かな心を育んだりすることに努めていると思います。」の結果、達成率は91%であった。<br>・職員アンケート「他教科と関連を意識した授業を実施できた」の達成率は84%であった。   |
|                    | ●健康・体力づくり  | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」<br>○「安全に関する資質・能力の育成」   | ●「健康に食事は大切である」と考える児童100%を目指す。<br>○朝食をとって登校する児童90%以上を目指す。<br>○登下校や休み時間を含め、運動やスポーツなどで体を動かす時間が1週間で300分以上の児童生徒60%以上                                   | ・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもち、食事の大切さに気付かせる。<br>・各学級で食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。<br>・登下校は原則歩いてすることを推奨する。<br>・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行う。運動委員会の児童に全校遊びを計画させ、実行する。<br>・地区児童会や学級指導を通して、放課後や長期休業中の時間の使い方を指導すると共に、外で体を動かすことに関心を持たせる。 | B  | ・アンケートでは、「健康に食事は大切である」と回答する児童は、97.6%で、「朝食をとって登校する」児童は、88%だった。85.4%から2.6%向上しているが、目標値には達していない。今後も、食事の大切さに気付かせる指導を継続して行う。<br>・熱中症予防で室内で過ごす日も多かったため、室内での過ごし方を指導した。<br>・今後、冬に向けての体力向上のために、運動委員会主催の全校遊びを実施する。 | B  |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在中等時間の削減  | ●時間外在中等時間の上限を遵守し、業務記録において全職員の超過勤務の平均が45時間を下回る。  | ・定時退勤日(毎週金曜日)を確実に実施し、18時に施錠する。<br>・校務システムを利用して、職員が効率良く業務を行えるようにする。  | B   | ・金曜日の退勤時間は早いのが、徹底できていない。引き続き管理職からの声掛けを行っていく。<br>・職員会議は事前の部会で提案内容が整理されており、効率的に実施できている。  | B   | ・業務記録においての達成率は96%であり、職員は超過勤務の平均が45時間を下回った。週1回の定時退勤日の実施が徹底できていなかった。<br>・校務システムを効率よく活用しながら業務の遂行ができている  |
|                    | ○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり                         | ○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90%以上にする。  | ・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的にかつ積極的に情報発信する。   | A   | ・学校だよりを校区内へ配布したり、学校の行事をホームページに公開したりして学校の様子を幅広く周知することができた。<br>・地域と連携した教育活動が実施できている。   | A   | ・保護者アンケートでは「開かれた学校づくり」に努めている保護者は93%であった。<br>・地域と連携した教育活動や情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりが実施できている。  |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |   |  | 中間評価  |          | 最終評価  |          |   |
|----------------------|---|--|---|----------|---|----------|---|
| 評価項目                 | 重点取組  |  | 具体的取組   | 中間評価     |   | 最終評価     |   |
|                      | 取組内容  | 成果指標 (数値目標)                                      |   | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し  | 達成度 (評価) | 実施結果  |
| ◎志を高める教育             | ○自らの夢や目標をもち、それに向けて「自分から」「自分で」努力しようとする気持ちを高める教育活動の推進 | ◎学校行事において自分の目標を意識して取り組める児童を85%以上にする。             | ・キャリアパスポートを活用し、自分の目標をもち、振り返りを行うことで、自主的・自発的に達成するという意識を高める。 | B        | ・運動会等の行事の前でキャリアパスポートを活用したことで「自分から」「自分で」目標に向かって取り組む児童の姿を見ることができている。                            | A        | ・学校行事において自分の目標を意識して取り組める児童が90%であった。行事ごとにキャリアパスポートを活用する取組は、児童にとって「自分から」「自分で」努力しようとするにつなげられている。                           |
| ○特別支援教育の充実           | ○教員の児童理解と支援力の向上                                     | ○職員アンケートで特別支援教育に関する児童理解と支援策を意識して指導する教師80%以上を目指す。 | ・特別支援教育に関する研修会を実施する。<br>・ケース会議の開催、連絡会による情報共有をする。          | B        | ・職員は研修会やケース会議、連絡会等を通して、児童の実態に応じた手立てを工夫したり、情報共有をしている。具体的な支援のあり方や方法については、さらに検討し、実践していかなければならない。 | A        | ・職員アンケートで「特別支援教育に関する児童理解と支援の重要性」を意識している教師は90%であった。今後はさらにケース会議や専門機関との連携などを通し、職員間の情報交換を密にして、実践へ向けた具体的取組みや手立てについて探っていききたい。 |

|                |   |
|----------------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <p>●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・教師間で情報交換をしながらICT機器を積極的に活用しわかりやすい授業を行ったことで、学習内容がよりわかると答えた児童が87%であった。また、「授業づくりのステップ1.2.3」を意識してステップ3を目指した授業づくりを行い、「話し合い活動」や「振り返り」はステップ3を達成した教員は72%であった。次年度は、基礎基本の学習内容の定着と思考力・判断力・表現力がさらに向上するように個別の指導・支援や家庭学習への取り組み方を工夫し、学力の底上げを全職員で図っていききたい。</p> <p>・挨拶、返事、言葉遣いに関して、87%の児童が肯定的に取り組むことができていた。人権集会や異学年交流、道徳の時間を通して、自分も相手も大切にすることを育む教育活動を行ってきた結果、93%の児童が肯定的に捉えることができていた。今後も継続して取り組み、困っていることや辛い思いなど自分の気持ちが伝えられるように教育相談体制を整え、家庭との連携を図っていききたい。また、教育活動を通して、児童の良さを伸ばし、一人一人を認め、励ましながら、自己肯定感を高める支援を行っていききたい。</p> <p>・昼休みや休み時間に、外に出て体を動かすよう声掛けを行ったり、運動委員会が中心となって全校遊びを実施したりして、体力向上の取組を行った。全校で取り組むことで、体を動かすことを楽しみながら体力の向上に努めることができた。</p> <p>・「健康に食事は大切である」と回答する児童は、95%、「朝食をとって登校する」児童は、95%であり、望ましい食生活は向上した。家庭での基本的な生活習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは87%の保護者が肯定的な回答をしている。食習慣の意識は高く、食事の大切さは認識できており、今後も発達段階に応じた食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。</p> |
|----------------|---|